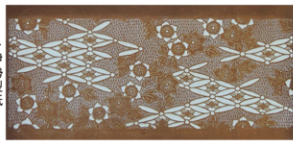




kumiko Nishida

古布の魅力を 多くの人に伝えたい

岡山市の西部、花尻地区にある「和ぎやらりー 来美古庵」。江戸時代から昭和初期にかけての職人の手仕事による着物の反物・反物といった古布・反物の染色に用いられた伊勢型紙、可愛らしいかんざしやちりめん細工、和食器や調度品などを収集・展示・販売し、日本の古き良き伝統文化を嗜好するコクタイや、着物に触れる機会の多い日舞・茶道・華道等の愛好者に人気を集めているギャラリーのコンセプトは、すべてオーナーである西田くみ子さんの目利きによる。西田さんは「古布の市」での買い付けや、季節に応じた所蔵品の展示など、ギャラリーの運営一切を一人で取り仕切っている。



▶ 伊勢型紙

● 趣味が高じ古物商の鑑札取得へ

現在では愛好者からも「目置かれる西田さんだが、以前から古美術品や骨董品を商つてきたわけではなく、この仕事を始めたきっかけをたずねると、「趣味のバッチワイクで古布を使いたかったのが始まりです」と話す。一方で、生来の凝り性もあり、すぐ古布の魅力に引き込まれていったという。「もともと商売をするつもりはありませんでしたが、古布を手に入れるために『古布の市』を利用したい、そのためには古物商の

和ぎやらりー 来美古庵
オーナー

西田くみ子さん

● 岡山市北区白石町新町7-1106
06-9255-0957
http://kumikon.com

鑑札が必要と知り、警察に問い合わせた所、「商売前提でなければ鑑札は出せない」と言われて、なりゆきで商売もすることになったんです」と西田さんは笑う。

● 多くのファンの支えで店舗を開設

そうして20年ほど前に起業。だが当初は自宅の離れを倉庫代わりにし、年4回ほど貸しスペースを使って展示販売会を開催する程度だったという。「最初は小ぢんまりとしたスペースを借りて、でしたが、愛好者さんのくちらミで大勢の人が詰め掛けるようになり、入場制限をしなければならなかったり、年を追うにつれ会場への搬入搬出が厳しくなってきた、今のお店を構えることにしたんです」とギャラリー運営は多くのファンに恵まれたこともあり、順調に推移していった。

● 人と触れ合いが好き

来美古庵には、西田さんが目利きした古布や古布を使った小物を求めて、多くのお客様が賑やかに集う。「自分の好きな物を販売して、色々な方の楽しい話が聞ける幸せな時間が送れています」と微笑む。「人と触れ合い、人の話を聞くのが好き。人から必要とされている」という西田さんの人からならでではのゴビワードと言えるだろう。

独自の審美眼で「日本の古き良き美」を現代に伝え続けている来美古庵、興味のあふれる方ぜひ一度足を運んでみてほしい。なおギャラリーは、毎月15日までオープンし、以後月末までは買い付けや展示替え等のために休業しているので訪問の際は注意を。